



## ロータリーを通じて 世界理解と平和を

WORLD UNDERSTANDING & PEACE THROUGH ROTARY



会長 新穂光一郎 幹事 藤川享胤 副会長・クラブ奉仕 内山喜一 職業奉仕 高岸三雄 社会奉仕 川村徳男 国際奉仕 齋藤利男 青少年奉仕 佐藤順治

出席報告：会員 70 名 出席 59 名 出席率 84.29 % 前回出席率 84.29 % 修正出席 66 名 確定出席率 94.29 %



### 第二次臨時行政調査会の中間報告を受けて

加藤 紘一代議士

鈴木総理が行政改革に命を賭けるといった時に、総理自身も言葉の使い方が明確ではなかったのですが、少なくとも総理は行財政改革に命を賭けるといったわけでありませう。行政改革だけでなく、財政改革にも命を賭けると。

それでこの言葉の定義というのが新聞、政治家の間で不明確なままに進んでおりますけれども、1つは行政の合理化、もう1つは、とにかく、これ以上借金はできたいと、金融関係の方々もいらっしやいます、御用金調達方式のような公債はもういい加減にやめてほしいと。金融業も最近構造不況業種の一種でありますから、もう受けられないということもあって借金から財政改革をしなければならぬ、という事で、行政改革と財政再建の2つがあるわけがございます。どちらが楽かといいますが、金減らしの方が楽でございます。

自民党というのは大人の政党ですから、金が無ければ無いで、それは仕方がないではないか、節約しましょうと話がつきます。しかし行政改革プロパーそのものという点では、この仕事が必要であるかないかということは、永遠の議論になりまして筋論になるものですから、かなりむずかしい仕事でございます。野党の方もこれに加わってまいりますし、特に役人も強烈に反抗致します。

お役所の反抗の強さというのは、2つの要因がございまして、1つは役人自身は自分がやっている仕事は絶対に国民の為に必要であるという確信に近い信念をもって反対するところであります。亡くなった大平総理が、行政改革のむずかしさを、それは当人が「正義感」だと思っているからである。といいましたけれども、それが1つでございます。

それから行政改革で役人の抵抗の第2の理由

は、少なくとも自分がその担当局長であるとか、担当課長であるときに、その仕事を切られるという事は、その省に残ったり、また将来、そのOBとして腕みを効かす際に大変な傷になるからです。だから、せめて自分としては、もう自分の担当課としての仕事はもういらぬと思うけれども俺のときだけは阻止したいというのが出てまいりまして、そこがむずかしいところなのです。

その行政改革と財政改革をどう云うバランスで進めていくか、というのが、実は今むずかしいところですが、大体、第1に金減らし、第2に人減らし、第3に機構・組織減らし、こういう順番でいくしかないだろうと思います。金を減らすということは、とにかく無い袖は振れないということですから比較的合意を得やすい。そこでまず金を減らして、金がないと仕事ができないから、仕事のないところに人員はいらぬだろう、ということでも人減らしになって人も金もなければ機構もいらぬのではないかと云うことの説得になるわけで、その金減らしの時ですが一番重要なのは「特にあなたのところは必要ない」ということになりまして、仲々まとまらない。従って全員金の減らし方は一律にやりますよと、いうわけです。文部省も厚生省も一律にやります。それぞれの省に責任をもたせる。

問題はゼロシーリングといまして去年以上の予算はあげないということはいいのですが、例外をどの程度認めるかということ、財政再建の山であったわけですが、それはうまく成功致しました。国内で節約すると云っても国と国との付き合い上の約束というのは、やはり無視できないから「防衛費の問題、対外経済協力の問題は例外にしましょう」それから今、金を減らすということは

庄内に空港を建設しましょう

重要なのですが、それによって将来に禍根を残すようなことがあってはいけませんので「エネルギー対策と化学技術の進行」については例外にしましょう。

凡そまとめてみますと、この4つが例外になります。それがすんなり内閣の閣議で決まりました。よく決まったものだなあと感じます。これはいままでゼロシーリングをやり、例外を4つ程度に収めるということは歴代の内閣で絶対にやれなかったことをやれたわけで、これは新聞等であまり報道されていませんけれど大変な成果でございます。

金減らしはそういうプロセスで大体7割か8割は軌道に乗ったといわれておりますが、本来の行政改革の中の動きはどうなるのかといいますと先程云いましたように、7月10日に臨調の土光さんから発表されたわけですが、それは、とりあえず来年度予算編成のための参考資料としてこの程度は考えて下さい。本格的な行政改革の答申につきましては、秋から来年度に又出しますよと云っているわけです。

以上が総論でございまして各論の段階でみますと重要なものがひとつは社会福祉との関係でございます。これを仲々切ることができないので、少し自治体にも持ってもらいたいということで、自治省と厚生省が猛烈な論議を今年の暮まで行ないます。

例えば生活保護、それから医師会の方もいらっしゃいますけれども西高東低大阪近辺は医療費が非常に高い。東北の方は低い、そその他いろいろありまして農業問題を云えば本来は米価水準を引き下げると、臨調が書きたかったところを何とか逆転をこれ以上増やさないようにという書き方に妥協してもらった経緯があるものですから、今年は基本米価は仲々あげられない。本当の専業農家はこの地域では基本米価が上がってもあまり意味がないので、それよりも自主流通米の水準の方が500円、1,000円すぐ変わってしまうわけなので、ちょっと今年の米価というのは出来上がりが悪かったという事がいえるのではないかと思います。

臨調の農業に対する批判の中で、もう一つ大きいのが最近専業農家がかなり苦しくなってきた農協の貯金の預貸率、土地の放し方をみてもかなりの深刻さであると思われまます。逆にいいたいのが第二種兼業農家でございまして、役場や農協やきちんとした工場に勤めている給料はきちんともらう、家に帰ると7反歩くらいの田があって70俵とれた、10俵は飯米でとっておくけれど、残りの60俵は政府に売ってアルバイト。そこまで保護する

必要があるのか。労働組合の出身の臨調の委員になりますと労働組合員の中から第二種兼業農家をそこまで食管制度で保護する必要はない、専業農家を守るのであれば、農業は大変だから保護してもいいけれど保護の仕方が間違っているのじゃないか、というような議論が非常に多く出ているところであります。

#### 一中 略一

そういうわけで、鈴木さんが行政改革に命を賭けるといったけれども、それで大丈夫か鈴木さんかなりフラフラして最近評判が良くないけど大丈夫かね、という話がございまして。鈴木さんが行政改革に命を賭けるといってはこれは結構なことではございまして、いうなれば、どうせやらなければならないことをやるに過ぎません。つまり来年度多額の増税して予算を組んでいいというならば別なのですが、今年1兆4千億円という大変な額を頂戴致しましたので、来年は増税できない雰囲気でございます。

そうならば所詮、行財政改革、増税なしで予算を組むというのは残された唯一の道なのでこれはやらざるを得ない道を進んでいるという判断は間違っていないと思います。しかしそれにしてもいろいろ反対が出てくるのではないかと、鈴木さんの力が落ちているのではないかと云われます。力が落ちたきっかけといわれますのが、云うまでもなく伊東外務大臣の辞任問題、それからアメリカに行って日米共同声明で同盟という話をしてきた、そういうところにあるわけでございまして。

同盟という言葉なぜ使ったか。実は大平さんが去年カーターさんと会談をやりましてそこで同盟関係の国としてアメリカを助けながらしっかりやりなさい、しかしあまり早まって軍事行動には出ないようにと、それを私が責任スポークスマンでしたから新聞記者会見で、大平・カーター会談でこういう話になりましたと発表したのが初めての筈でございます。

日本の外交はソ連とも自由主義諸国とも仲よくして行きますという全方位等距離の外交を建前にしていたわけですが、ソ連がアフガンに攻めて行くことによってヨーロッパ諸国もなとなし反発するし、アメリカに到っては穀物を売りません。こういう対抗手段に出たわけですが、ソ連はそう出られて“あーしまった”と思ったけれどもあとの祭、同時に自由主義諸国もあんな間違っただ判断をさせたのは我々が悪かったのではないかと、そんなことをしたら、そういう報復措置に出ますよということを事前に予告しておかなかったのがいけ

ないのではないかと、という反省が出てきたわけ  
 でございます。従って当面は自由主義諸国としては  
 同盟という言葉を使ってきちんとまとまりして  
 ソ連に厳しく出ることがソ連を柔くすることだ。  
 この当面の間はきちんとした団結を保とうという  
 判断でございます。

しかし今度のサミットをみても基本的にはその  
 線でいこうということが合意されたということが  
 明確になったわけでございます。同盟という言  
 葉、それを使ったというその背景が新聞にも充分  
 にわかってもらえなかったし、ある意味では外務  
 省が総理大臣に充分説明してなかったのではない  
 だろうかと思えます。

しかし鈴木内閣はサミットではまあまあうまく  
 やって来ましたし、行政改革、今後も減らしの  
 方はうまくやれそうでございます。鈴木さんは新  
 聞を気にしすぎる総理大臣というところがござい  
 ますが、総理大臣というのは所詮、新聞に賞めら  
 れることはないんだということをはっきり腹の中  
 に収めて割り切ってしまうと鈴木さんももっと安  
 定した政治になるのではないかと考えておりま  
 す。

それでは鈴木さんが辞めて誰になるのかとい  
 ったら、福田さんのもう一回カムバック、二階堂さ  
 さん、中曽根さんという話ですが、やはりそれでは  
 ちょっとまとまらないような感じが致します。鈴  
 木内閣が成立した当初のようにとりあえず今のと  
 ころは鈴木さんにやってもらおうしかないというよ  
 うな雰囲気では今後の政局は少なくとも来年の暮ま  
 では推移していくのではなからうかと思ふ次第で  
 ございます。

以上最近の行政と政治の流れの一部分を申し上  
 げましてスピーチにさせていただきます。

(紙面の都合上、話された事の半分程割愛しまし  
 た事を申し添えます。係)

## 委員会報告

斎藤国際奉仕理事

地区よりの通達によりアジア100円献金は、地  
 区レベルとしての世界社会奉仕事業より外し、ク  
 ラブレベルで独自のW.C.Sプロジェクトを選び  
 テーマの実践に尽力するよとの事です。

## クラブ協議会

7月28日(火) P.M.4:30 第一イン

議題 計画書の検討(記録抜粋)

**S.A.A...**1,2回食事の配膳の遅れがあったが今  
 後こういった事が無いよう申し入れる。

(新人としては大変な活動だが、ご苦労さん)

**出席...**R.Cでは出席が最大の目的である。6  
 人休むと93%を割るのでご協力を。

(難しい理論よりまず出席を!)

**親睦...**家族会、と近隣クラブとの友好を2本の  
 柱としている。

(知り合いを広めるチャンス)

**プログラム...**ゲストスピーチを重点的に、時事  
 ・社会問題を取り上げる。

(いいスピーカーは顔を使って、息切れしない  
 ように)

**会員増強...**ロータリーの力は質×数なので、質  
 のいい会員を増やしたい。

(来年度へ向けて今一段のパワーを)

**広報...**マスコミとの連繋を密にしたい。積極的  
 にマスコミに働きかけるべきだ。

(私を含めて田舎者は消極的で)

**情報...**協議会へ新人の参加を求めた。ファイ  
 アーサイドへの積極的参加。

(次年度地区幹事の子、復習もかねて)

**会報...**読んで面白い紙面作りは難しい。投稿  
 を願う。

(体裁、内容共見ごたえあり、頑張ってますな  
 あ)

**国際青少年計画...**一コミッティでなく広い意味  
 での計画と解釈している。

(留学生の出入りバランスを考えんと)

**米山・ロータリー財団...**フェロー11名、準フェ  
 ロー8名、歴代会長は進んでフェローに!

(耳が痛い、何とか)

**世界社会奉仕...**地区サイドでのプロジェクト終  
 ったとすれば100円献金は不要なのは。

(世界のどこかで不幸な事態が。100円献金続  
 けて貰いたい)

**国際親睦...**マッチドクラブへクラブより案内状  
 を差し上げる。

(ニュー・ブランズウィックの市長が福井へ来  
 る折に)

**インターアクト...**メンバー、顧問教師とも熱が  
 ない。理想と現実のギャップを感じる。

(余り絶望しないで、I.Cの年次大会で話し  
 合いを)

**ローターアクト...**今年度は鶴岡がホスト・クラ  
 ブを引き受けた。米沢R.A.Cの代りに。

(張切ってますなあ。金はかけないで精神的に  
 お手伝い)

( )内は会長コメントです。

回 顧

近 頃 想 う 事



阿 部 与 十 郎 君

昭和35年1月25日の庄内日報に、トップ記事として鶴岡ロータリー盛大な認証伝達式と題し、詳細に記載してあります。それを再読して当時を思い出し、「世のあらゆるものに対して“奉仕の理想”他人に好意と友情を深めてみんなのためになり、そして世界平和に貢献しようという団体鶴岡 R.C の創立を想起し、チャーターメンバーの一員として再起せねばならないと思いました。



飯 白 祐 信 君

鶴岡ロータリークラブに入会してから20年余になる訳ですのでその間には色々と思い出される事項がございますか随分長いこと会のお世話になって参りましたし人生体験の豊富な会員の方との交誼を通して色々と教えられる処がありました。老人と云える年齢になってつくづく有難かったと思っております。入会した当初はロータリー用語と云えるかどうか色々な文章に英語的言語がとび出して参りますので困惑した事が思い出されます。

例 会 メ モ

- 7月23日、余目中央公民館で庄内分区の会長・幹事会があった。その折の話題を列挙すると
- ガバナーより、各クラブに自慢話やエピソード等の原稿を依頼、ガバナー月信に掲載したいと申し入れがありました。
- 米山奨学金の協力として、年2千円位お願いしたいとの事。
- 留学生の質が低下しているので、今後の留学生派遣は選考を厳にするとの事。
- R財団の拡大という事で、フェロー1名、準フェロー3～4名、各クラブで増員して欲しい。
- 庄内地区のI.C.G.Fは9月20日に行われますが、盤城平R.Cの加藤バスターがフォーラムリーダーで出席されるとの事でした。
- I.C.G.Fのモデレーターが決まりました。鶴岡西がクラブ奉仕、温海が社会奉仕、酒田東が職業奉仕、遊佐クラブが国際奉仕となります。
- 台中港区よりピーコック（孔雀）の壁画飾りが送られて参りましたが、どこに飾ったらよいか迷っています。

8 月（はづき）の 暦

- 8月1日 由良花火大会・水の日・観光の日  
伊勢両宮（神明町）例祭
- 2日 月山市民登山
- 4日 酒田港祭り
- 5日 山銀みやま会「勝負と人生」  
加茂熊野神社例祭
- 6日 広島原爆記念日・旧七夕
- 7日 立秋 大山愛宕神社例祭・鼻の日
- 9日 長崎原爆記念日
- 13日 旧盆
- 14・15日 鶴岡ふるさとまつり盆踊り大会
- 15日 終戦記念日36年  
神明町八幡神社例祭
- 17日 庄内神社例祭
- 20日 大山古峰神社例祭  
新海町八幡神社例祭
- 23日 処暑
- 25日～28日 山形大学公開講座
- 27日 由良古峰神社例祭

幹 事 報 告

- 鶴岡ふるさとまつり内川イベント・チャリティーガラクタ市開催の協力とお願い。
- ロータリー米山記念奨学会より通知  
張紹淵さん長男・広重さん、長女・紀久代さんがこの度米山功労者になられた旨、お知らせがありました。表彰は慣例に従い地区大会席上に於てご披露致します。

ビ ジ タ ー

温海R.C	菅原 鉄三郎君	菅原 鉄之助君
	佐藤五右工門君	
余目R.C	佐藤 孝二郎君	
立川R.C	滝 禅 源 君	
鶴岡西R.C	菅原 年雄君	菅原 幸雄君
	半田 茂弥君	阿部 光男君
	三浦 正志君	佐藤 成生君
	井上 彬君	加藤 拓君

プログラム委員会より

- ◎ 本日 8月4日 作田ガバナー公式訪問 於 第一イン
- ◎ 次回 8月11日 庄内の将来を思う 山形県企画調整部次長 富塚 陽一氏